天然プールと呼ばれた子どもたちの天国
ー黒川用水前の分水池ー

■黒川用水の開鑿（かいさく）

庄内用水元杁樋門（もといりひもん）（名古屋市守山区瀬古）は、木曽川から庄内川を経て堀川へ水を引くために、1878（明治11）年黒川治愿（はるよし）（県土木官僚）によって造られた。矢田川は河床が高いので、サイフォンで矢田川の下をくぐっていました（矢田川伏越（ふせこし））。完成後、用水は黒川に因んで黒川用水と名付けられた。黒川用水は、1911年5月に改築され、庄内用水元杁樋や伏越箇所には、服部長七の発明にかかる人造石が使用された。

天然プールと呼ばれた分水池　（昭和10年頃）

■天然プールと呼ばれた分水池

矢田川伏越の出口には、庄内用水、黒川用水、志賀用水、上飯田用水等に分水するための分水池が設けられた。まだプールのほとんど無かった時代で、「天然プール」といわれて、子どもたちの絶好の水遊びの場となっていた。人出を当て込んで、海の家のような出店もでき、天然プールは非常に賑わっていた。泳ぎの達者な子は真っ暗な伏越の中を泳いだりしたという。しかし、水におぼれて亡くなる子供もいて、おぼれた子を悼んで、黒川樋門の南東には地蔵尊が建てられている。

また、天然プールも、1977（昭和52）年に「三階橋ポンプ場」が建設されると廃止され、今はもうなくなっている。

1980年には黒川樋門が復元され、1992年には名古屋都市景観重要建築物に指定され、樋門の傍らには「天然プールの碑」が建てられている。

「天然プール」の碑

復元された黒川樋門

溺れて亡くなった子を悼み、
建立された地蔵尊

（浅野伸一）